

# 古河市立小中学校情報機器整備に係る 各種計画

2025年3月25日 公開  
2025年3月25日 更新

【古河市】

端末整備・更新計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 児童生徒数	9,657	9,829	9,565	9,312	9,028
② 予備機を含む整備上限台数	11,105	11,303	3,276	1,210	884
③ 整備台数(予備機除く)	500	7,038	1,500	0	0
④ ③のうち 基金事業によるもの	0	7,038	1,500	0	0
⑤ 累積更新率	5.2%	76.7%	94.5%	97.1%	100.1%
⑥ 予備機整備台数	0	685	275	0	0
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	0	685	275	0	0
⑧ 予備機整備率	0.0%	9.1%	10.6%	10.6%	10.6%

※①～⑧は未到来年度等にあつては推定値を記入する

(端末の整備・更新の考え方)

対象となる学校は、古河市内小学校 23 校、古河市内中学校 9 校となる。

使用開始から 5 年以上経過した 1 人 1 台端末について、その時の児童生徒数に応じて調達を行う。

なお、令和 6 年度から令和 8 年度にかけて端末整備を実施する理由は、以下のとおりである。

【令和 6 年度】……平成 27 年度～令和元年度整備 iPad 台数分の(一部)入替整備

【令和 7 年度】……平成 27 年度～令和元年度整備 iPad 台数分の(全)入替整備

令和 2 年度整備 Chromebook 台数分の(全)入替整備

【令和 8 年度】……令和 3 年度整備 Chromebook 台数分の(全)入替整備

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数:8,296 台

○処分方法

・資源有効利用促進法の製造事業者へ再資源化を委託 :8,296 台

○端末のデータの消去方法

・処分事業者へ委託し、データ消去を行う

○スケジュール(予定)

令和8年3月 ・処分事業者 選定 ・令和 7 年度整備の新規購入端末の使用開始

令和8年9月 ・使用済端末の事業者への引き渡し

令和9年3月 ・処分事業者 選定 ・令和 8 年度整備の新規購入端末の使用開始

令和9年9月 ・使用済端末の事業者への引き渡し

**【古河市】**  
**ネットワーク整備計画**

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合(%)

<対象校>

市内小中学校 全32校

必要なネットワーク速度が確保されている学校数 32校

総学校数に占める割合(%)100%

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

(1) ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

全32校においてネットワークアセスメントを実施済である。

(2) ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

ネットワークアセスメントの結果を踏まえ、令和7年4月から順次改善策の検討を開始し、令和8年度当初予算に計上のうえ、端末の更新を終える、令和9年3月までに対象校における改善策を完了させる。なお、令和9年3月の改善までに暫定措置として対応可能な対策を保守業者と協議し、可能な限り対応していく。

(3) 当該課題の解決の方法と実施スケジュール

現状のネットワークアセスメントの結果、必要なネットワーク速度が確保されていることが判明しているが、近い将来、デジタル教科書の利活用やCBTの実施等に備え、想定し得る校外ネットワークの影響によるネットワーク速度の低下について予防策を講じる必要性がある。そのため、令和8年度までに光回線契約やプロバイダの見直しをしていく予定である。

## 【古河市】 校務DX計画

### 【現 状】

古河市では、学校とやり取りする文書のペーパーレス化や押印省略等、アンケート集計ツール(Google Forms)の活用等を通して校務 DX に取り組んでおり、一定の成果は表れている。一方で、「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果、「教育委員会主催研修会のハイブリッド化及びオンデマンド化」、「校務支援システムへの出欠情報等不要な手入力作業の一掃」が校務の効率化に向けた主な課題となっている。「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を踏まえても、これらの課題について早急に解決に向けて検討が必要と捉えている。

### 【課 題】

#### (1)教育委員会主催研修会のハイブリッド化及びオンデマンド化

古河市では、ICT機器の利活用促進のための研修会、教育論文執筆者を対象とした研修会、初任者研修会等、様々な研修会を実施しており、約半数の研修会では資料をクラウドツールを使って共有したり、講師指導をオンラインで傍聴できるようにしたりしている。

しかし、半数は依然として参集型の研修であり、配付資料はペーパーベースであることから、現地に来られなかった教員が後から研修内容をフォローすることが困難な体制である。

#### (2)校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

保護者から受ける欠席等の連絡は、Google Workspace 等のクラウドツールやその他の連絡用アプリケーションの活用により、徐々にDX化が進んでいる。しかし、他システムに入力された出欠席の記録を校務支援システム上に手入力しており、誤入力や修正が頻繁に発生していることから教職員の負担となっている。

### 【取組方針】

現状と課題から古河市では、下記の通り校務 DX の推進を図っていく。

#### (1)教育委員会主催研修会のハイブリッド型及びオンデマンド化

- クラウド化による研修会資料の共有
- 市提携企業(Google、AIドリル業者、端末保守業者等)と連携した研修会のハイブリッド化
- テレワークシステムを活用したワークライフバランスの実現

#### (2)校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

- 校務系と学習系のネットワークを統合し、教職員の端末を1台にすることによる、USBフラッシュメモリの廃止
- 校務支援システムと学習eポータルとのデータ連携を通したシングルサインオンの推進

## 【古河市】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』（令和3年1月）等を踏まえ、古河市では目指す学びの姿を「一人一人の個性や能力を伸ばし、確かな学びをはぐくむ」とする。具体的には、学習用端末・クラウドツールなどを活用し、児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて、いつでもどこでも学ぶことができ、ダイバーシティ社会で一人ひとりの能力を十分に発揮できること。多様な学び且つ主体的・対話的で深い学びができることを目指す。

#### 2. GIGA 第1期の総括

古河市では、これまで1人1台端末の整備と共に、校内などの通信ネットワークの整備を進めてきた。また、市主催の研修会やICT支援員の助言のもと、授業での活用も徐々に進んできており、児童生徒同士で意見交換を行い、問題解決に取り組むといったことも行われている。一方で、教職員のICTを活用した指導する能力については、教職員の意識・スキルといった面で学校内又は学校間での格差がある。また、端末でスライド資料を作成し、提示しながら発表する活動は広く行われている一方で、資料や発表原稿について表現の適切さを吟味する対話的な学習活動はあまり行われていない。

端末を用いた主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、今後、より一層1人1台端末の利活用を進めていくには端末、通信ネットワークや周辺環境等の整備に加え、教職員のICTを活用した指導力の向上が求められると考えている。

#### 3. 1人1台端末の利活用方策

端末の利活用を進めていくにあたり、端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持していくと共に、端末の利活用方策として以下について検討をしていく。

- ・ 新規採用教員やICT機器操作に苦手意識のある教員を対象としたICT研修を設け、必要な研修を受講できるよう整備する。機器の基本操作に限らず、クラウドを活用した授業の研修を通して共同編集や他者参照の学びを教職員が実際に体験することで、協働的な学びを授業で行うことができるようにする。
- ・ ICT利活用が得意な教員が、互いの活用状況や困り感が共有できるようなプラットフォーム(Google チャットやクラスルーム等)を構築し、市全体で連携を深める。また、先進事例や先進的取組等の情報共有を図る。
- ・ 市ICT端末保守業者による、ICT支援業務の活用を促進する。